日本労働九州聯合會執行委員會議事報告
總同盟

一、日時　二月五日午后七時ヨリ　一、會場　製鋼小倉労働會館
一、出席者、伊藤、久保、内野、宮崎、岡田、桃足、広渡、越智、南、奥村、徳田、
開會　議長　伊藤卯四郎
主事　久保時造

一、一般報告
1、九聯本部報告
イ、昨十二月十三日台湾より飯朝の途次顧問鈴木文治氏を迎え製鋼小倉支部セメント門司支部にて講演會開催し、更らに一月十六日亀井代議士の八幡市丸九デパートに於ける時局批判座談會へ九聯の同志多数を参聴さした。
ロ、一月十日夜製鋼小倉労働會館に於て三本製鋼組合長、斎藤青年部長の来倉を機して九聯加盟の組合代表者會議を兼ね新年懇談會を催した。
ハ、兼ねて九聯にて議決されてゐた日本労働組合會議九州地方協議會加盟団体青年部統一組織は一月十五日、全廿三日、二月四日と準備會を重ね来る二月十日午后六時より製鋼小倉労働會館にて結成大会を開催することとなった。
ニ、企救郡中谷村採石山従業員待遇劣悪にて不満動揺の報が来てゐる。更に山口縣三田尻の帝国タイヤ株式會社争議団より応援を求めて来たので臣家戦略を授けたが、九聯へ求援した報に事態の拡大を憂え三田尻署にて停調に努力中の由か報告された。

2、九聯本部報告補充　會長　伊藤卯四郎
イ、八大名義の臨時工使用反対、工場法の脱法違法工場摘発は大会決議になってゐたが、之が元に縣警察部工場課へ公私両面より臨時工酷使工場法の脱法違法の記実を挙けて折衝談判したる所、縣會直前に大阪朝日新聞九州版に於てかかる非法工場に厳重警告し之に応せざれば断乎たる処分をする旨を声明してあったので、縣會中更に警察部長に質問し右記事は縣警察部の方針なる旨を言明させ非法工場主等恐怖的反省に強力なる効果を挙げてゐる。
ロ、昨秋労働経済社週間座談会を日本石炭坑夫組合主催で開催し、その内容か坑夫の実際生活を語る座談會として「労経」誌上に発表され筑豊炭田の酷使、逆待、脱法、違法殆と治外法権的暴状か天下に暴露されるや、検事局、縣特高課は之か徹底的取締りを声明し、その新聞記事か余りにも辛辣的に書かれたので筑豊の縣会議員坑主（主として小炭山）の組織する互助會系坑主の恐怖時代を現出し、曽つてなき程、積極的に検察当局の活動を促した。
ニ、労働者募集取締令徹底化も坑夫組合より提案されて大会決議となってゐたが、これの積弊は独り炭坑労働者のみではなく陸上労働者とも海上労働者ともつかぬ艀船夫に於ても甚だ困苦してゐるところで、「日本労働組合會議九州地方協議会大会へも連続二年提案議決されてゐるところであるので縣會本会議並予算委員会に於ては特に知事の出席を求め、有料職業紹介所の違法、脱法の放任を責め、無料職業紹介所の機能の統一拡充を求めたるところ、知事は営利職業紹介所の機能の統一拡充處置は立法の問題にして本縣のみの處理とは参らぬるが、公営職業紹介所の機能の統一拡充を徹底せしめ、営利職業紹介を無力たらしめその営業を不能にすることが実際問題として可能であるから極力之に努力すると言明し、これに続いて縣下の全無料職業紹介所の代表と各町村長が會合して協議が続いて三回も開かれ、これの対策が確立されつつある。
ハ、福岡縣産業委員會の設置は大會決議であるが、之を縣会へ持ち出し、知事も賛意を表し、今回上京前非公式に、現在の福岡縣勞資懇談會は社交機関に過ぎず、之を専門機関化して知事の主催する権威ある産業委員會の組織、構成に就き談合したると知事か主催者たることは、

所長　所員
昭和10年2月12日